



17歳からジャズを歌い続ける石井順子さん＝神戸市中央区北長狭通1、ヘンリー

83歳、現役ジャズシンガー石井順子さん

深み増す歌声 神戸彩る



「神戸ジャズストリート」が帰ってくる

今秋、「神戸ジャズストリート」が3年ぶりに帰ってくる。83歳の現役シンガー石井順子さんも心待ちにする。17歳で初めてステージに立ち、神戸のジャズ史を刻んできたレジェンド的存在だ。戦後復興、経済成長、バブル崩壊、阪神・淡路大震災、そして新型コロナウイルス禍…。苦難を糧に、深みの増した歌声を神戸・北野に響かせる。(中部 剛)

ジャズストリートは1982年に始まり、ディキシランドやスイングなど伝統的なジャズを重視。全国のジャズストリートの先駆けとなった。阪神・淡路大震災があった95年を含め、38回続いたが、2019年、台風のため1日のみの開催となり、収入が激減。実行委員会の高齢化や新型コロナウイルス禍も重なり、20年から中止されていた。

石井さんは常連の出演者の一人で、三宮のジャズバー「ヘンリー」を営む。両親は戦前、軽食や飲み物を提供する「ミルクホール」を神戸で経営し、レコードでジャズを流す店として評判だったという。そんな両親の下に生まれた石井さんは当然、ジャズを聴きながら育ち、自然と口ずさむようになった。

戦後、中学生になるとラジオ神戸(現ラジオ関西)などのコンテストに出場しては歌声を披露。敗戦を引きずる空気のなか、「敵国の音楽を歌うのか、非国民」と陰口をたたかれたこともあった。高校2年のころ、父親が市

戦後復興、震災、コロナ禍…逆境をばねに

19歳の石井順子さん。右は若き日のミッキー・カーチスさん(石井さん提供)



電にはねられ、大げが。家計を支えるために神戸の音楽喫茶「月光」で歌い始めた。活動範囲は大阪に広がり、数々の有名キャバレーにも出演。石井さんは「安もんの店では歌わへん」と言うような生意気な子でした」と笑う。家計が改善し、一時ステージシンガーから離れるものの、40代からヘンリーで働くように。阪神・淡路大震災で店のあるビルが全壊し、閉店の危機に見舞われたが、約1年3カ月後の96年4月に再建を果たした。各界のジャズ好きが集まり、「順ちゃん」と呼ばれて親しまれる。2018年には開業60周年を迎え、盛大に祝った。

ところが、今度はコロナ禍。ヘンリーへの客足は途絶え、大好きな歌を歌うことができなくなった。それだけに、神戸ジャズストリートにかける思いは強い。30〜40曲はいつでも歌えると石井さん。艶やかな声に衰えは見えない。3年ぶりの開催に「ボイストレーニングもしないとね。こんな年になったけど、頑張ればやれるんや」ということを見せたい」と目を輝かせる。

ジャズストリートは10月8、9日(正午〜午後5時)、神戸市中央区北野町界隈に9会場設けられる。実行委員会がホームページを開設している。

多彩な返礼品 寄付呼び掛け
用し、100万円を目標に資金を集めている。寄付額に応じ、オリジナルのタオルやTシャツ、トートバッグなど多彩な返礼品を用意している。実行委は「『神戸の宝』の灯を消してしまうのは、身が引き裂かれる思い。ジャズという素晴らしい文化を残したい」と言い、協力を呼び掛けている。期間は7月31日まで。

神戸ジャズストリート実行委員会は3年ぶりのイベントを成功させるため、クラウドファンディングで資金を募っている。

実行委は、日本のジャズ発祥の地とされる神戸にこのイベントを定着させ、ジャズ文化を根付かせたいと願う。だが、コロナ禍でスポンサーが十分に集まらず、資金確保に苦労。神戸新聞のCFサイト「エールファンド」を活



エールファンド「神戸ジャズストリート」のQRコード

(左から)返礼品のオリジナルポーチ、デニムトートバッグ、缶バッジ

ギャラリー

神 玄心書道展 併催 公募展 7月1日〜3日、原田の森ギャラリー ☎078・801・1591
Photo樹光会 クラブ写真展 7月5日まで、

7373
ライフスペース・プロペラ作品展 7月1日〜9月30日、原田の森ギャラリー ☎078・801・1591
西宮 ちいさな展覧会 7月3日まで、ギャラリーねうねう ☎0798・65・3790
雅士・幸代と仲間たち展 7月5日〜10日、西宮市立北口ギャラリー ☎0798・69・3160

■関西の主な美術館・博物館の展覧会(7月)■

館名	展覧会名	会期	電話番号
兵庫県立美術館(神戸市)	関西の80年代	~8/21	078・262・1011
兵庫県立美術館ギャラリー棟3階(同)	みみをすますように 酒井駒子展	7/9~8/28	050・5542・8600
神戸市立博物館(同)	スコットランド国立美術館 THE GREAT S 美の巨匠たち	7/16~9/25	078・391・0035

「すたいる」は週3回、に掲載します。新型コロナ対

調平正

お父ちゃん、お母ちゃんがね、「ジャズ」という店名のミルクホールをやってたんよ。レコードでジャズを流すと外国の船員さんがそれに合わせて楽器演奏したそうよ◆両親にまつわる昭和初期の逸話を、83歳の現役ジャズシンガー石井順子さんが語ってくれた。そのミルクホールは神戸初のジャズ喫茶とも言われる◆両親のDNAを引き継いだのか、幼い頃からジャズを口ずさみ、17歳でステージに立った。いまは神戸・三宮のジャズバー「ヘンリー」の主だ。体にしみ込んでくるような歌声が客を酔わせる◆戦時下でジャズは一切禁止され、戦後になっても「敵国の歌を歌う非国民」と後ろ指をさされた。石井さんは激動の時代を生き、神戸のジャズ史を刻んできた◆戦後復興、高度経済成長、冷戦、バブル崩壊…。阪神・淡路大震災は大切な店をめちゃくちゃにした。そして新型コロナ。大好きな歌が歌えなくなったが、やっと収束の灯が見えてきた。3年ぶりの神戸ジャズストリートに向け、石井さんは歌声を磨く◆ジャズは異文化が溶け合う米ニューオーリンズで誕生。来年、神戸上陸から百年になる。いまウクライナの情勢は混迷を極め、東アジアも緊迫感を増す。戦争は破壊、平和は創造。災禍のない社会が文化を育む。